

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

施 設 名	高松国分寺ホール		
指定管理者	日本管財・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体	施設所管課等	文化芸術振興課
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	公募
所 在 地	高松市国分寺町新名430番地	業務の概要	・ホールの使用許可及びその変更の許可、使用許可の取消し並びに使用の停止に関する業務 ・入館の拒否及び退館の命令に関する業務 ・ホール及び設備の維持管理に関する業務 ・ホール利用の促進に関する業務 ・ホールを利用した文化芸術の振興に関する業務 ・その他ホールの設置目的を達成するための事業実施に関する業務
施設の概要	【施設】 鉄骨鉄筋コンクリート造(一部鉄筋コンクリート造、鉄骨造) 地上2階建 【使用時間】 9～22時 休館日：月曜日、年末年始		

	項目名	令和6年度	令和5年度	項目名	令和6年度	令和5年度
利用状況等	利用者数	38,026 人	40,101 人	ホール稼働率(日別)	86.2 %	88 %
	自主事業開催数	29 回	28 回			
	自主事業参加者数	7,520 人	7,978 人			
収支状況等	収入総額	54,156 千円	53,261 千円	支出総額	53,556 千円	52,107 千円
	指定管理料収入	43,396 千円	42,936 千円	精算額(市へ戻入分)	1,500 千円	1,710 千円
	施設利用料収入	10,760 千円	10,325 千円			

評価基準	評 価 項 目		指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
1 基本事項	①法令上必要な知識等、安全対策、危機管理		関連法令や個人情報保護条例等を遵守して施設の運営、維持管理を実施した。有資格者を防火管理者に選任して防災訓練を2度実施する等、利用者の安全確保および危機管理体制を再整備した。また個人情報保護に関する教育やサステナブルに関する教育を実施して、職員の理解促進に努めると共に、環境に配慮した物品の積極的な購入も行った。また毎月自治監査を行い、施設従業員と本社エリアプロデューサーとで相互チェックを実施することで、適切な管理を徹底した。	A
	②-1個人情報の保護・情報公開			
	②-2環境への配慮			
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性		事業計画及び運営マニュアルに基づき、利用者の公平性、平等性確保に重点を置いた運営を実施した。貸館に関するアンケートを実施したところ、アクセス面に関しての満足度が全体と比較して低かったが、「会場設備・備品」「スタッフ対応」「施設内の清潔さ」に関しては、回答者全員が「満足/やや満足」を回答した。リピーターだけでなく、新規利用者の満足度も高いため、日々の運営・接客が評価されたと考えられる。	S
	②平等な利用の確保			
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策		Youtube、Instagram、X、Facebookに加え、今年度から公式LINEを開設した。公式LINEからのイベント申込を可能としたことで、利用者の使いやすさを向上した。また、恒例事業に加えて、オーロラ上映会や移動プラネタリウム等の新しい事業の実施、移動観覧席修繕後にはミュージカル事業も開催した。これらの事業に対してアンケートを実施したところ、各公演の平均満足度が65%と前年度と大きく差が出てきた。アンケートを新形態に変えたことにより、無回答率が増加したことが数値に影響したと考えられるため、無回答の数を削減していく取り組みが次年度以降必要であると考えられる。	S
	②広報・PR対策			
	③企画事業・自主事業			
	④市・関係団体・地域等との連携			
	⑤サービス向上の取組			
	⑥相談・苦情への対応			
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等		施設貸館・総務経理・文化事業および舞台サポートと、各部門に社員スタッフを配置し、市内の在住者、地元の雇用を最大限に優先させた。研修に関しては、「全国アートマネジメント研修会サマーセミナー」や「公文協施設視察研修(香川県立アリーナ)」に参加する等、個々人の業務スキル向上にも取り組んだ。昨年度一部収支が計画通りに遂行されなかったことを踏まえ、今年度は四半期に1回、JV間での会議を開催し、収支の執行状況を共有することで、適切な管理を行うことができた。	S
	②教育・研修			
	③就業規則等の遵守			
	④施設運営の健全性の確保(経営状況の確認を含む)			
	⑤損害保険等			
	⑥収支計画と執行管理			
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費		利用者の視点に立った設備利用料金や入場料を設定し、広報・PR等を通じて収入確保に向けた取組を実施した。また10周年の特別体験事業を実施し、初めての方や少人数での利用促進を図った。移動観覧席が故障した際は、施設長と本社エリアプロデューサー間で速やかに情報を共有し、今後の対策(主にお客様対応)に向け協議し、適切な対応を行った。会計部分については、毎日必ず複数で検金を行い、現金現在高調書を作成。責任者は、現金現在高調書と現金出納帳とを照合し、一致を確認している。また本社のエリアプロデューサーも施設訪問時に確認を行うことも徹底した。	A
	②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点			
	③経営の効率化			
	④合理的な会計制度			

総合評価コメント			総合評価
高松国分寺ホール指定管理者として、施設の維持管理・運営業務については、運営マニュアルに基づき、適切に実施できている。また、個人情報保護、コンプライアンス、環境配慮に関する試験を行うほか、「サステナブル」に関する研修・教育を実施するなど、時代に沿った教育も積極的に取り入れ、職員への周知徹底のための工夫がなされている。 ホールのPRに関しては、YouTubeやInstagram、LINEなど、時代に沿ったSNSを活用した情報提供に努めるとともに、引き続きインターネットを活用しない層を念頭に置いたチラシ配布等、幅広い世代に向けた利用促進対策が行われており評価できる。また、館内に、県内の他の文化施設のチラシ・ポスターを集めてPRするコーナーを設けており、来館を契機として、様々な文化事業に興味を持ってもらうための工夫がなされている。 移動観覧席故障に伴い、平土間利用が制限される中においても、予約者に対する迅速・丁寧な対応を行った結果、前年を上回る利用料金収入が得られている。また、自主事業では、参加者の増加に繋がる工夫をしながら、個人や文化団体の活動に寄り添った小規模な事業を含め多様な事業展開を積極的に行うなど、利用者の満足度は高い。地域との連携については、開館当初より地元の文化団体、コミュニティ協議会等と協力した事業展開のほか、自主事業においては地元大学との連携を行っている。 これまで同様、地域と密接に連携するとともに、本市西部地域における市民の文化活動の創造・発表、交流の拠点として、ホールのさらなる価値の向上に努めてもらいたい。			S